

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名：公益財団法人 新宿未来創造財団

1. 事業の概要

事業名称	「はじめてしゃべる日本語クラス」新宿区最初心者(ゼロビギナー)対象の日本語支援事業
事業の目的	新宿区では在住外国人比率が12%を超え、既存の新宿区日本語教室は、安価で参加できることもあり、学習希望者が増加している。特に最初心者(ゼロビギナー)の学習希望者は多く、また国籍も学習目的も多様であるため、学習者の様々なニーズや日本語レベルに対応しながら教室を運営しなければならなくなっている。教室ではボランティアによるグループ学習を実施しているが、最初心者の支援に集中してしまうことで他の学習者への対応が希薄になったり、グループ学習であることから最初心者が学習に付いていけなくなってしまう等、最初心者への教え方や対応に苦慮している状況も見られるようになっている。このような状況を鑑み、最初心者対象の教室を開設し、学習しやすい環境を整えるとともに、最初心者が日本語を学ぶために必要な日本語教室運営のノウハウや、ボランティアのスキル、テキストを構築する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	日本語教室は新宿区からの受託事業として実施している。そのため、予算の制約があり、新たに教室を開設することは困難であった。また、日本語教室は年間を通して3学期制で実施しており、併せて、学期途中での教室への参加も可能としているため、様々なレベルの学習者が随時参加する。第二言語の習得は、個人によって大きな差があるため、グループ学習の中に受入れた際はボランティアに支援技術を要する。さらに最初心レベルの学習者が途中で入ってきた時には、既学習者とのレベルの差やボランティア人数の不足から教室運営への負担はかなり大きい。その結果、最初心者に対応できない教室も出てきていた。
事業内容の概要	最初心者を対象とした教室を新たに開設した。その中で、最初心者対応に必要なスキル、教材、運営体制のノウハウを構築した。ボランティアが学習者を支援し、実践を通してスキルを身に付けた。ボランティアの養成・研修については専門家に依頼し、新宿区に適合した支援方法を、「生活者としての外国人」に対する日本語教育における指導力評価を利用したPDCAサイクルを元に実施した。また、専門家とともに「生活者としての外国人」に対する日本語教育のカリキュラム案の中から、新宿区の方針や最初心者に合う内容をピックアップし、テキストを作成し、教室の運営体制を確立した。学習者は、最初心学習者を専門とするボランティアからしゃべることを重点的に学び、日本語を話す基礎を身に付けることができた。最初心クラスを修了した学習者は、新宿区内にある既存の日本語教室を案内し、さらなる日本語習得を目指す流れを構築した。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年2月 (10か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

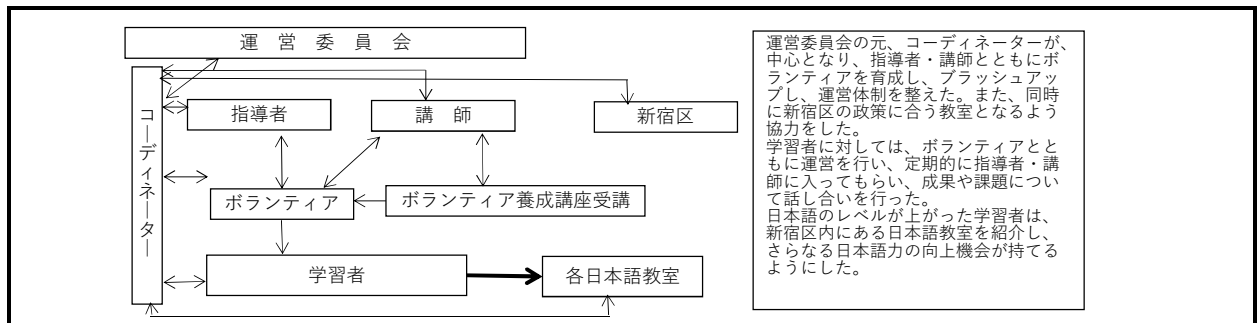
1	内野 桂子	新宿区役所
2	佐藤 陽一	公益財団法人 新宿未来創造財団
3	米田 雅朗	新宿区立大久保図書館
4	関口 明子	国際日本語普及協会
5	岸田 心	公益財団法人 新宿未来創造財団(10月以降)
6	伊藤 健人	関東学院大学
7	ヤン・ジョンヨン	群馬県立女子大学
8	ブパール・マン・シュレスタ	株式会社GMTインターナショナル
9	(桑島 祐介)	公益財団法人 新宿未来創造財団(10月まで)
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年5月25日(木) 19:00～21:00	2時間	新宿コズミックセンター	内野桂子、佐藤陽一、米田雅朗、関口明子、桑島祐介、伊藤健人、ヤン・ジョンヨン、ブパール・マン・シュレスタ	1. 運営委員会設置規約について 2. 「はじめてしゃべる日本語クラス」概要 3. 教室運営方法、研修講座についての検討
2	平成29年10月26日(木) 19:00～21:30	2時間30分	新宿コズミックセンター	内野桂子、佐藤陽一、米田雅朗、関口明子、岸田心、伊藤健人、ヤン・ジョンヨン、ブパール・マン・シュレスタ	1. 第1回運営委員会での指摘事項の改善報告 2. 「はじめてしゃべる日本語クラス」中間報告 3. テキスト(教材)についての検討
3	平成30年2月22日(木) 16:00～18:00	2時間	新宿コズミックセンター	内野桂子、佐藤陽一、関口明子、岸田心、伊藤健人、ブパール・マン・シュレスタ	1. 「はじめてしゃべる日本語クラス」終了報告 2. 「はじめてしゃべる日本語クラス」中間報告 3. 平成30年度に向けての検討

(2) 事業の実施体制



(3) 地域における連携体制

新宿区地域振興部多文化共生推進課……既存の日本語教室の運営及び外国人支援の方針の検討を行った。
 新宿区日本語教室、新宿日本語ネットワーク、区内ボランティアによる日本語教室
 ……最初心教室修了後の学習者の受け入れ先として、継続した日本語支援を行った。
 国際日本語普及協会……研修・養成講座の講師を行った。テキスト作成実績の活用を行った。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 プラザ教室運営】										
目的・目標	新宿区では在住外国人比率が12%を超え、学習希望者が増加している。既存の新宿区日本語教室ではボランティアが日本語学習最初級者・初級者をグループ学習で支援しているが、特に最初級者の学習希望者が多く、また国籍も学習目的も多様であるため、学習者の様々なニーズや日本語レベルの対応をしながら教室を運営する必要がある。ところが実際は最初級者へ支援が集中してしまったり、教え方や対応に苦慮している状況も見られた。そこで、日本語運用能力のほとんどない最初級学習者を対象に、発話を中心とした支援を実施し、生活に必要な日本語学習へ繋げていく。									
対象	最初級程度(ゼロビギナー)									
取組の内容	(1)文字は使わず、音声による学習支援を行った (2)語彙・表現が音声で認識できるようになってから、文字学習を導入した (3)音声で言える語彙・表現を文字で書けるように指導した									
実施期間	平成29年8月1日～平成29年12月19日					曜日・時間帯		火曜日(9:30～11:30)		
開催回数	全40時間 (1回 2時間 × 20回)					開催場所		しんじゅく多文化共生プラザ		
参加者	総数 39 人 (日本語学習者31人、指導者・支援者8人など)					使用した教材・リソース		にほんごえてん、写真		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	5	3	0	1	8	0	1	0	1	1
	トルコ共和国(1人)、スリランカ民主社会主義共和国(1人)、モロッコ王国(1人)、フランス共和国(1人)、アメリカ合衆国(1人)、ミャンマー連邦共和国(3人)、ベルギー王国(1人)、バングラデシュ人民共和国(2人)、インド(1人)									
カリキュラム案活用	・教室運営20回分のコースデザインを考える際に、ゼロ初級者に対しどの項目を優先すべきか検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用した。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名	
1	平成29年8月1日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	10	あいさつ	会話の導入を学習		安藤、今田 上田、蛭子 大屋、岡本 原、松浦		
2	平成29年8月8日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	10	なんですか？	モノ名詞を中心に学習		安藤、今田 上田、蛭子 大屋、岡本 原、松浦		
3	平成29年8月22日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	9	どこですか？	トコロ名詞を中心に学習		安藤、今田 上田、蛭子 大屋、岡本 原、松浦	寺田	
4	平成29年8月29日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	10	だれですか？	ヒト名詞を中心に学習		安藤、上田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田	
5	平成29年9月5日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	9	いつですか？	月日の学習		安藤、今田 上田、蛭子 大川内、大屋 岡本、原、松浦	寺田	
6	平成29年9月12日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	11	なにをたべますか？	「名詞(料理)+をたべます」の学習		安藤、今田 蛭子、大屋 岡本、松浦	寺田	
7	平成29年9月19日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	14	いくらですか？	値段を取り上げて、数字の復習 買物の学習		安藤、今田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦		
8	平成29年9月26日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	9	いへは、どこです か？	家・場所・地名名詞の学習		安藤、今田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田	
9	平成29年10月3日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	8	いくつですか？	数量詞の学習		安藤、今田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田	
10	平成29年10月10日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	9	なにが ほしいです か？	「モノ名詞+がほしいです」の学習		今田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田	
11	平成29年10月17日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	8	トイレは どこです か？	場所(まち・交通)名詞の学習		安藤、今田 蛭子、大川内 原、松浦	寺田	
12	平成29年10月24日(火) 9:30～11:30	2	しんじゅく 多文化共生 プラザ	9	どこに いきます か？	移動名詞の学習		安藤、今田 蛭子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田	

13	平成29年10月31日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	8	だれと きました？	「ヒト名詞+にきます」の学習	安藤 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田
14	平成29年11月7日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	8	なにを かいまし た？	「食べ物名詞+をかいます」の学習	安藤、今田 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田
15	平成29年11月14日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	8	～は たかいで すか？	「形容詞(属性)です」の学習	安藤、今田 蛸子 大屋、岡本 原、松浦	寺田
16	平成29年11月21日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	8	～は どこに あり ますか？	「名詞(地名)+にあります」など 存在名詞の学習	安藤、今田 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田
17	平成29年11月28日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	10	なにで いきま すか？	「〇〇でいきます」など 交通手段の学習	今田 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田
18	平成29年12月5日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	なにが たべたい ですか？	「〇〇をたべたい」など 願望動詞の学習	安藤、今田 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田
19	平成29年12月12日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	どんなあじで すか？	味覚形容詞の学習	安藤、今田 蛸子 大屋、岡本 原、松浦	寺田
20	平成29年12月19日(火) 9:30～11:30	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	3	どんなかさで すか？	属性形容詞の学習	安藤、今田 蛸子、大川内 大屋、岡本 原、松浦	寺田

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年8月1日】

自分の名前を確認しながら、自己紹介における日本語の挨拶を学習した。

- ・各学習者の名前の確認と、指導者の名前の紹介。
- ・日本のあいさつ(朝・昼・夜)について学習。
- ・音声で反復練習を実施した後、ひらがな表でも確認しながら学習。
- ・学習者同士、自己紹介を実施した。



○取組事例②

【第6回 29年9月5日】

食事場面で使用する名詞を中心に、動詞や形容詞も関連して学習した。

- ・料理で使用する道具名詞を中心にイラストを使用して指差し確認した。
- ・日本の料理名を紹介しつつ、各学習者の好きな料理名を発言してもらった。
- ・名詞だけではなく、後半のシラバスでも取り入れる動詞や形容詞も関連させて学習した。
- ・動詞や形容詞は音声だけで覚えてもらい、料理のイラストを見せながら、料理名+動詞・形容詞という短文を発言してもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・既存の新宿区日本語教室との連携することができた。
- ・発話を中心とした学習を実施することができた。
- ・日本における生活情報や文化なども紹介できた。
- ・5回ごとに入室をすよる予定だったが、途中で学習者数が少なくなったので、随時受け入れるようにした。

(3) 今後の改善点について

- ・学習者を随時受け入れられるか、入室時期を検討する必要がある。
- ・教室内4グループに分け、その内2グループをボランティア2名体制で実施したが、2名体制で実施する場合、それぞれの役割を明確にする必要がある。
- ・学習者の中に文字学習を希望する場合もあるので、音声学習が中心であることを学習者にも認識してもらう必要がある。

日本語教育の実施【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 四谷教室運営】										
	新宿区では在住外国人比率が12%を超え、学習希望者が増加している。既存の新宿区日本語教室ではボランティアが日本語学習最初心者・初級者をグループ学習で支援しているが、特に最初心者の学習希望者が多く、また国籍も学習目的も多様であるため、学習者の様々なニーズや日本語レベルの対応をしながら教室を運営する必要がある。ところが実際は最初心者へ支援が集中してしまったり、教え方や対応に苦慮している状況も見られた。そこで、日本語運用能力のほとんどない最初心級学習者を対象に、発話を中心とした支援を実施し、生活に必要な日本語学習へ繋げていく。									
対象	最初心程度（ゼロビギナー）									
取組の内容	(1)文字は使わず、音声による学習支援を行った (2)語彙・表現が音声で認識できるようになってから、文字学習を導入した (3)音声で言える語彙・表現を文字で書けるように指導した									
実施期間	平成29年8月1日～平成29年12月19日					曜日・時間帯		火曜日（ 19:00～21:00）		
開催回数	全40時間 （1回 2時間 × 20回）					開催場所		四谷ひろば		
参加者	総数 19 人 （日本語学習者17人、 指導者・支援者4人など）					使用した教材・リソース		にほんごえてん、写真		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	3	4	1	0	1	0	0	0		2
	アフガニスタン・イスラム共和国(2人)、フランス共和国(2人)、アメリカ合衆国(1人)、チュニジア共和国(1人)									
カリキュラム案活用	・教室運営20回分のコースデザインを考える際に、ゼロ初心者に対しどの項目を優先すべきか検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用した。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ		授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年8月1日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	5	あいさつ		会話の導入を学習		上田、奥野 竹内、西村	
2	平成29年8月8日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	なんですか？		モノ名詞を中心に学習		上田、奥野 竹内、西村	
3	平成29年8月22日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	どこですか？		トコロ名詞を中心に学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
4	平成29年8月29日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	だれですか？		ヒト名詞を中心に学習		上田、奥野 竹内、西村	
5	平成29年9月5日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	いつですか？		月日の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
6	平成29年9月12日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	なにをたべますか？		「名詞(料理)+をたべます」の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
7	平成29年9月19日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	いくらですか？		値段を取り上げて、数字の復習 買物の学習		上田、奥野 竹内	高坂
8	平成29年9月26日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	いはい、どこですか？		家・場所・地名名詞の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
9	平成29年10月3日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	いくつですか？		数量詞の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
10	平成29年10月10日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	なにが ほしいですか？		「モノ名詞+がほしいです」の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
11	平成29年10月17日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	トイレは どこですか？		場所(まち・交通)名詞の学習		上田、奥野 竹内、西村	高坂
12	平成29年10月24日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	どこに いきますか？		移動名詞の学習		上田、奥野、西 村	高坂
13	平成29年10月31日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	4	だれと きました？		「ヒト名詞+にきます」の学習		上田、奥野、西 村	高坂
14	平成29年11月7日(火) 9:30～11:30	2	四谷ひろば	6	なにを かいましたか？		「食べ物名詞+をかいます」の学習		上田、奥野、西 村	高坂

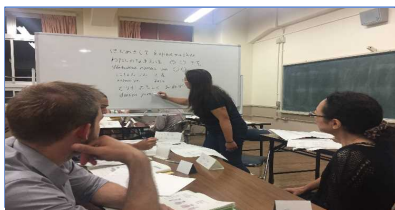
15	平成29年11月14日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	5	～は たかいですか？	「形容詞(属性)です」の学習	上田、奥野、西村	高坂
16	平成29年11月21日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	6	～は どこに ありますか？	「名詞(地名)+にあります」など存在名詞の学習	上田、奥野、西村	
17	平成29年11月28日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	6	なにで いきますか？	「〇〇でいきます」など交通手段の学習	上田、奥野、西村	高坂
18	平成29年12月5日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	5	なにが たべたいですか？	「〇〇をたべたい」など願望動詞の学習	上田、奥野、西村	高坂
19	平成29年12月12日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	4	どんなあじですか？	味覚形容詞の学習	上田、奥野、西村	高坂
20	平成29年12月19日(火) 9:30~11:30	2	四谷ひろば	5	どんなかさですか？	属性形容詞の学習	上田、奥野、西村	高坂

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 29年8月1日】

- 自分の名前を確認しながら、自己紹介における日本語の挨拶を学習した。
- 各学習者の名前の確認と、指導者の名前を紹介した。
- 日本のあいさつ(朝・昼・夜)について学習した。
- 音声で反復練習を実施した後、ひらがな表でも確認しながら学習した。
- 学習者同士、自己紹介を実施した。



○取組事例②

【第12回 29年10月24日】

- 場所名詞の復習と知っている地名の確認をした。
- 地図を見ながら、学習者が実際に行く場所を説明した。
- 路線図を見ながら、行きたい場所、もしくはいつも行く場所までの経路を説明してもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

- 既存の新宿区日本語教室との連携ができなかった。
- 発話を中心とした学習を実施することができた。
- 日本における生活情報や文化なども紹介できた。
- 5回ごとに入室をすする予定だったが、途中で学習者数が少なくなったので、随時受け入れるようにした。

(3) 今後の改善点について

- 学習者を随時受け入れられるか、入室時期を検討する必要がある。
- ボランティア数が4名のため安定した運営ができないので、最低でも6名に増員する。
- 学習者数が少ないので、四谷から教室を移動させる必要がある。
- 学習者の中に文字学習を希望する場合もあるので、音声学習が中心であることを学習者にも認識してもらう必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 事前研修】										
目的・目標	文化庁委託事業「はじめてしゃべる日本語クラス」を運営するボランティアを研修するため。 クラス開始前に、日本語学習最初級者に対する教授法を習得する。									
対象	新宿区関連日本語教室 ボランティア 13人(すでに新宿区の日本語教室でボランティアとして活動している人)									
取組の内容	日本語学習最初級者に対する日本語支援の方法 (1)日本語能力(レベル)について (2)ゼロビギナーの特徴 (3)言語習得のメカニズム:インプット・アウトプット・インテイク (4)言語能力の向上:単語→文1(単文)→文2(複文)→段落 (5)語の習得の重要性:語の性質・語の難易度・語と文の繋がりがり (6)ゼロビギナー向けの教材とは									
実施期間	平成29年6月22日～平成29年7月27日					曜日・時間帯		木曜日(9:30 ～ 11:30)		
開催回数	全 12 時間 (1回 2時間 × 6回)					開催場所 使用した教材・リソース		新宿コズミックセンター 3階 小会議室他 講師作成のレジュメ 補助者作成の教室概要		
参加者	総数 <u>72</u> 人 (受講者)									
出身・国内別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	日本(15人)									
カリキュラム案活用	・教室運営20回分のコースデザインを考える際に、ゼロ初級者に対しどの項目を優先すべきか検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用した。									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成29年6月22日(木) 9:30～11:30	2	新宿区立教育センター 5階 大研修室	12	クラス概要 日本語最初級者の特徴	日本支援の基礎 音声中心、インプットとインテイクとアウトプットの違い		伊藤 健人	桑島 祐介 嘉山 澄 赤谷 英貴 加藤 玲奈	
2	平成29年6月29日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	13	支援の流れを考える	帰納的な支援、下位語を中心とした単語導入、複数支援モデル		伊藤 健人	嘉山 澄 加藤 玲奈	
3	平成29年7月6日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	11	到達目標を考える	到達目標の設定 生活に最低限必要な日本語とは		伊藤 健人	嘉山 澄 赤谷 英貴 加藤 玲奈	
4	平成29年7月13日(木) 9:30～11:30	2	新宿文化センター 4階 第2会議室	11	教材について考える	聴覚・視覚的な支援、対人コミュニケーションを優先、単語の導入		伊藤 健人	嘉山 澄 赤谷 英貴 加藤 玲奈	
5	平成29年7月20日(木) 9:30～11:30	2	新宿区立教育センター 5階 中研修室	12	コースデザインを考える	シラバスの種類、対象・目標・内容・教材と活動の流れを考える		伊藤 健人	嘉山 澄 加藤 玲奈	
6	平成29年7月27日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	13	シラバスを考える	各回の目標を立てて、内容と教材を具体化する、クラス運営に向けて		伊藤 健人	嘉山 澄 加藤 玲奈	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成29年6月22日】

日本語ゼロ初級者への支援方法を考える研修を行った。

- ・入門者への支援は、文字に頼らず音声を中心に行う。
- ・前回教えたことが、次回100%定着しているとは考えられない。週1回のクラスではなおさらである。
- ・語彙や文型の体系性は後回しにして、有意義な対人コミュニケーションを優先する。
- ・文を作る素材となる「単語」から支援を始めて行く(徐々に文法につなげる)。
- ・複数の支援者が連携してモデルを示す。



○取組事例②

【第5回 平成29年7月20日】

実際の教室運営の20回分のコースデザインを考える研修を行った。

- ・対象、目標、内容、教材と活動の流れについて、グループワークを行った。
- ・受講生である運営ボランティアは、はじめて実施するゼロ初級者への支援ということもあり、実際の教室の運営イメージを十分につかむことができなかった。
- ・運営ボランティアのやる気は引き出せたが、自分たちで教室を作っていくという意識は薄く、率先してコースデザインや教材作成に取り組むことができなかった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・運営ボランティアが十分に教室運営のイメージをつかむには、6回の事前研修では不十分であった。
- ・講座終了時に実施したアンケートでは、ゼロ初級者への支援について今までの支援方法とは異なる、新たな発見ができたという声がある一方、半数が内容及び回数に「不満」、「やや少ない」と回答しており、事前準備としては十分でない結果となった。

(3) 今後の改善点について

- ・来年度は今年度の教室運営状況を踏まえ、運営ボランティアに対し、より具体的な運営方法や教材作成方法を事前に研修する。
- ・事前研修では、教室運営のロールプレイの複数回実施や、運営ボランティアの自意識の啓発に取り組む必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア養成講座】

目的・目標	平成30年度に「はじめてしゃべる日本語クラス」を運営するボランティアを養成するため。来年度のクラス開催に向け、日本語学習最初級者に対する教授法を習得する。								
対象	新宿区及び近隣特別区居住者 17人(公募により受講決定)								
取組の内容	日本語最初級者に対する日本語支援の方法 (1)新宿区日本語教室状況及び概要説明 (2)ボランティア心構え (3)日本語ゼロ初級者に接する際の知識・経験 (4)言語知識 (5)発話コントロール								
実施期間	平成29年11月1日～平成30年1月17日					曜日・時間帯		水曜日(9:50 ～ 11:50)	
開催回数	全 20 時間 (1回 2時間 × 10回)					開催場所 使用した教材・リソース		新宿コズミックセンター 3階 小会議室	
参加者	総数 <u>144</u> 人 (受講生)							講師作成のレジュメ、教材 補助者作成の教室概要、運営状況、ボランティア登録案内	
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(17人)								
カリキュラム案活用	・模擬授業で「買い物」を取り上げた際、「物品購入・サービスを利用する」の下位項目を参照した。								

養成・研修の実施内容

[illegible]

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成29年11月8日】

はじめて外国語を学ぶ学習者の気持ちを理解するため、下記の内容でタイ語での外国語学習体験を行った。

- ・タイ語での発話を聞き、またイラストや写真を見て、内容を理解する。
- ・講師の発話だけを聞き、何を言っているか聞き取る。
- ・ホワイトボードに貼ったイラストを見ながら講師の発話を聞き、内容を推測する。
- ・上記の発展として、講師の問いかけにタイ語で答える。
- ・母語での通訳や、文法・文字について説明がなくても学習できるということを認識してもらった。



○取組事例②

【第10回 平成30年1月17日】

養成講座での受講内容をもとに、受講者による模擬授業を実施した。

- ・受講者は3人もしくは4人のグループに分かれた。
- ・それぞれのグループで八百屋もしくは肉屋での買い物テーマに、20分の教室活動を組み立てた。
- ・教材はこれまで講座内で扱ったもの、あるいは担当講師が準備したものを使用した。
- ・グループ内でボランティア役、学習者役を交代で担当し、模擬授業を実施した。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・講座修了時に実施したアンケートでは、受講生の満足度が3.6点(4点満点)となり、満足度が高い結果となっていた。
- ・講座を通じボランティア活動への関心が更に強まり、受講生17名の内、6名がすでに来年度のボランティア登録を完了している。

(3) 今後の改善点について

- ・受講生の満足度が高く、来年度の活動への関心が高い一方で、「実際のクラス運営のイメージができない」との意見もあり、来年度の実施において改善が必要である。
- ・既存ボランティアと新規ボランティア候補(受講生)にそれぞれどのように活躍してもらうか検討する。
- ・夜に活動を希望している新規ボランティア候補が少ないため、既存ボランティアも含め活動教室の調整に留意する。
- ・来年度の研修講座において、新規ボランティア候補がより自主的、具体的に教室運営に関われるように工夫する。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 ブラッシュアップ研修】

目的・目標	文化庁委託事業「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティアのブラッシュアップのため。 クラス実施後に、運営方法や作成教材を振り返る。								
対象	「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア 11人								
取組の内容	「はじめてしゃべる日本語クラス」振り返り (1)作成教材の精査 (2)シラバスの見直し (3)次年度実施時の改善点の共有								
実施期間	平成30年2月1日～平成30年2月22日					曜日・時間帯	木曜日（ 9:30 ～ 11:30 ）		
開催回数	全 8 時間 （ 1回 2時間 × 4回 ）					開催場所 使用した教材・リソース	新宿コズミックセンター 3階 小会議室		
参加者	総数 38 人 （運営ボランティア）						運営ボランティア教室振り返り議事録 講師作成の議事録抜粋、レジュメ 教室運営において作成した教材		
出身・国内別訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(11人)								
カリキュラム案活用	・来年度の運営に向け、5回分の活動教材案を作成する際、「生活上の行為の事例」一覧を参照し、必要となる単語や教材を検討した。								
養成・研修の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名
1	平成30年2月1日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	8	振り返り	テキスト、シラバス運営方法、事前研修について振り返る		伊藤 健人	嘉山 澄 加藤 玲奈
2	平成30年2月8日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	10	H30年度に向けて検討	H30年度計画の説明、H30年度運営のイメージ		伊藤 健人	嘉山 澄 赤谷 英貴 加藤 玲奈
3	平成30年2月15日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	10	H30年度のシラバスの検討	20回中5回分のシラバスを組み立てる		伊藤 健人	加藤 玲奈
4	平成30年2月22日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 小会議室	10	活動教材の共通フォーマットの検討	活動は①導入②今日のことば ③話す、聞く④会話⑤読むの順で実施		伊藤 健人	嘉山 澄 赤谷 英貴 加藤 玲奈

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 平成30年2月8日】

H30年度の教室実施に向け、運営方法のイメージを共有した(確認内容は下記)。
・全20回を5回ずつの4タームに分け、学習者がいつでも入れる仕組みにしておく。
・タームの途中で学習者が入ったとしても、その期間で5項目をスパイラルに扱い、タームを修了したという扱いにしておく。
・学習者のプレースメントテストやレベルチェックを実施する。

【教室運営のイメージ】

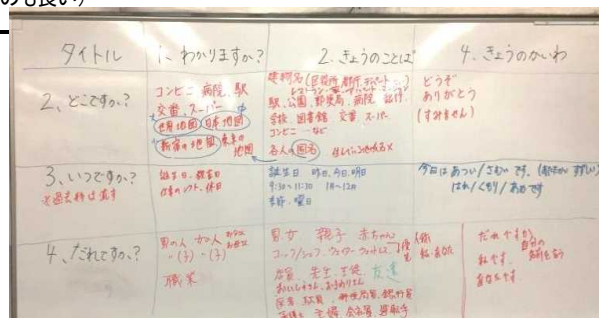
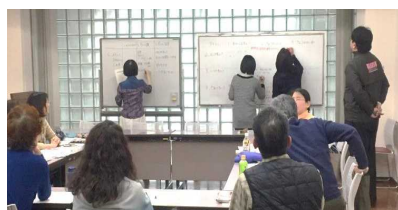


○取組事例②

【第4回 平成30年2月22日】

平成30年度の教室運営に向け、改善点を踏まえた活動教材の共通フォーマットの検討を行い、以下の5つの順に作成することを確認した。

- ①導入(学習者から学習内容の概要について反応をもらう、ボランティア2人でモデルを示す)
- ②今日の言葉(イラストの中で、学習者が好きなものを選ぶ、発音を確認する、学習者の母語で単語の発音を言ってもらう)
- ③聞く、話す(②の定着を目指す、学習者が使えるもののみ取り上げる)
- ④会話(課毎で、「にほんご・えじてん」の使用箇所に付箋を貼っておくのも良い)
- ⑤文字学習(学習者が言えるようになった単語から、文字学習をする)



(2) 目標の達成状況・成果

・4回の講座を通じ、今年度作成した教材の振り返りや、来年度の運営に向けた改善点の共有をすることができた。
・教材については、教室運営中に使用したものへ運営ボランティアの使用感を踏まえた意見を反映し、平成29年度末に提出する一連のものに作成し直すことができた。
・一方で最終回に実施したアンケートでは、受講生である運営ボランティアの満足度が3.2点(4点満点)となり、養成講座の受講生アンケートと比べ、満足度が低い結果となっていた。原因は講座の回数が少なく十分に議論ができなかった点、また来年度に向けたより具体的なイメージ化ができなかったためと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・運営ボランティアによって、教室への理解度や運営技能にばらつきがあるため、来年度以降に共通認識の強化や技能の向上を図る。
・来年度7月に実施を予定している6回の日本語クラス開始前研修において、今年度の養成講座修了生とともに、既存ボランティアにもより具体的な運営方法や教材の使用方法を学び、理解してもらう実践活動を取り入れる。
・上記の実現にあたり、来年度事業開始となる5月から中核メンバーで事業体制の精査及び運営方法の確立を行う。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称： はじめてしゃべる日本語クラス ボランティア用教材・学習者用教材】			
目的・目標	最初級者が初級レベルの学習ができる様に、絵・写真の利用に重きを置き、その後ひらがな・カタカナ・数字・常用かんたん語彙・簡単な文により、「聞く・読む・書く・話す」レベルを引き上げる。		
対象	日本語最初級者・支援ボランティア		
教材の内容	1、最初は、文字は一切使わず、音声のみで支援を始める 絵・写真・動作を基本とし、耳で日本語に触れてもらう(生活者として必要な日本語の支援)。 2、ある程度の語彙・表現が音声で認識できるようになったところで、文字を導入する 生活者として必要な日本語支援で触れてきた音声日本語を絵・写真、文字、を使って繋げる。 3、話すことができる語彙・表現を書くことができるようにする(一般の日本語教室に参加する準備をしていく)		
実施期間	平成29年8月1日～平成30年2月28日	成果物のリンク先	
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	1回 2時間 × 20回 = 40時間分	教材の頁数	学習者用 86ページ ボランティア用77ページ
カリキュラム案活用	事例をもとに、生活に必要な語彙のイラストを収集した。 教材例集を活用して、テキスト校正を検討した。		
教材の活用方法	来年度の「はじめてしゃべる日本語クラス」で活用。		
今後の活用の予定	来年度の「はじめてしゃべる日本語クラス」で活用。見直しを行い、他の教室でも使用できるように整備していく。		



はじめてしゃべる日本語クラス	
1-1 おはよう	おはようございます。こんにちは。おはようございます。
1-2 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-3 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-4 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-5 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-6 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-7 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-8 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-9 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-10 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-11 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-12 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-13 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-14 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-15 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-16 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-17 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-18 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-19 こんにちは	こんにちは。おはようございます。
1-20 こんにちは	こんにちは。おはようございます。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

新宿区では在住外国人比率が12%を超え、既存の新宿区日本語教室は、安価で参加できることもあり、学習希望者が増加している。特に最初級者（ゼロビギナー）の学習希望者は多く、また国籍も学習目的も多様であるため、学習者の様々なニーズや日本語レベルに対応しながら教室を運営しなければならなくなっている。教室ではボランティアによるグループ学習を実施しているが、最初級者の支援に集中してしまうことで他の学習者への対応が希薄になったり、グループ学習であることから最初級者が学習に付いていけなくなってしまう等、最初級者への教え方や対応に苦慮している状況も見られるようになっている。このような状況を鑑み、最初級者対象の教室を開設し、学習しやすい環境を整えるとともに、最初級者が日本語を学ぶために必要な日本語教室運営のノウハウや、ボランティアのスキル、テキストを構築する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

日本語最初級者の学びの場として2教室を実施した結果、3点の事が成果・課題として確認できた。
1. 最初級者のクラスを設置したことにより、他教室の運営が少し安定でき、最初級者に「はじめてしゃべる日本語クラス」を案内する経路ができた。教室内では、運営で最初級者を扱う難しさも経験できた。
2. ボランティアの意識向上に繋がった。最初級者に焦点を当てた研修を行い、教室運営に従事したことで、ボランティア同士が毎回支援方法について勉強会を行いながら進めることができた。
3. テキストを作成する第一歩となった。今まで日本語教室ではテキストを用意していなかったため、テキスト作成のきっかけとなった。また、専門家とともに、事務局、ボランティアが意見を出し合いながら進めることができた。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

最初級者のための教室を運営したため、カリキュラム案のイラストや写真を参考にしながら、教室運営・テキスト作りを行っていった。また、教材例集の会話例は最初級のため、用いなかったが、発話練習、語彙を多く取り入れ、活用していった。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

新宿区で実施している新宿区日本語教室との連携で、最初級者が教室を訪ねた場合、「はじめてしゃべる日本語クラス」を紹介してもらい、最初級者の受け皿としての成果を出すことができた。また、「はじめてしゃべる日本語クラス」の学習者の中で、学習がスムーズに進んだ学習者を新宿区日本語教室に受け入れてもらい、相互に関係性を持つことができた。
また運営委員が地域への情報発信を行い、クラスの周知に関わったり、新宿区との連携で、今後のどのように新宿区の事業として取り組んでいくのか話し合うことができた。
より多くの区内日本語教室、地域とのつながりを広げていきたい。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

財団で定期的に発信している広報紙に記事を掲載するとともに、ホームページでの多言語情報発信、9ヶ国語のチラシ作成、新宿区のSNSを利用して周知を行った。
また、運営委員が発行しているネパール新聞にも記事を掲載し、多くのネパール人の参加者が募れた。
事業成果を運営委員や新宿区には発信しているが、地域への発信までには至っていない。

(6) 改善点、今後の課題について

1. 教室の設置場所について、今回新宿区内の空き施設を利用して実施したが、夜開設した教室の参加者が少なかった。運営委員からも夜教室の需要は見込めるとの話もあったため、次年度以降は、外国人利用の多い施設に移転して実施する。
2. 教室の運営については、最初級者の意欲を把握しながら、途中リタイヤ者を少なくできるように気を配ってきたい。
3. テキストは、新宿らしさをより鮮明にしたものを作成し、他教室でも取り入れられるよう整備してきたい。

(7) その他参考資料

